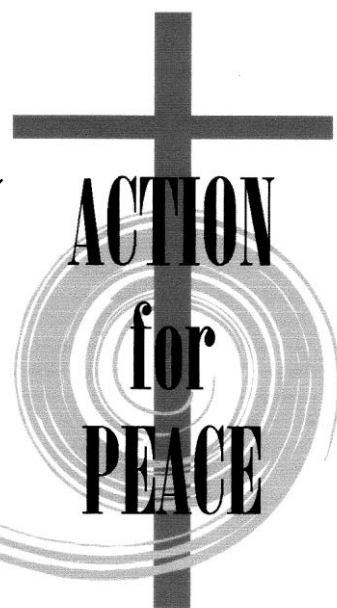


日本バプテスト連盟
憲法改悪を許さない
私たちの共同アクション

ニュースレター

2016年 5月 14日 No. 36

さいたま市南区南浦和 1-2-4 日本バプテスト連盟



2016年5月3日（火・憲法記念日）恵泉バプテスト教会で、バプテスト憲法フェスティバルが行われ、125名ほどの参加がありました。6名の方々のリレートークを聞きながら、ショートムービー「戦争のつくり方」を観て、共に平和が作られていく世界のために祈りを合わせました。今号では、このフェスティバルでの憲法アクション委員長挨拶をご紹介します。

憲法フェスティバル「開会のあいさつ」

藤澤一清

おはようございます。

死の闇から復活したイエス・キリストが、だいじなお方を失い悲しみと不安のうちにある女性たちに姿を現わし、最初にかけての言葉は「おはよう」でした。この言葉はもともと「喜ぼう」という意味の挨拶です。戸惑う女性たちに主イエスは、「私だよ、あのガリラヤで命を喜ぶ時を互いに過ごしたあの私だよ」と呼びかけました。

かつて主イエスはガリラヤの地で「神の国は近づいた。あなたがたは悔い改めて福音を信ぜよ」と呼びかけ、その周囲には小さくされた者たち、つまり貧しい人びと、飢えている人びと、病を負っている者、

虐げられている女性たち、こどもたち、差別を受けている外国人たちが群がりました。そこは人の命をだいじにする時と場となり、それはまさに神の国の実現でありました。その主イエスは、今ここに集まっている私たちにも、「おはよう。私はここにいる。神の国を喜ぼう」と呼びかけています。ですからフェスティバルなのです。

その主イエスが、こうも語りました。「神の国は力づくで襲われている。激しく襲う者が神の国を奪い取ろうとしている」と。いったいそれはどういう勢力でしょうか。主イエスが呼びかけた命を喜び合う神の国とは全く異なる神の国運動です。同じことが今、私たちの周囲においても起こっています。きょう私たちは、私たちから神の国を奪い取ろうとする勢力に対し、反対と抗議の意思を示すために、ここに集まっています。

今から16年前の2000年のことです。当時の森首相は神道政治連盟国会議員懇談会で「日本は天皇を中心とする神の国である」と発言し、それは憲法の理念に反するとの厳しい世論を受けました。そして2か月後に衆議院解散に追い込まれました。世に言う「神の国解散」です。しかしこの思想は、その後に結成された「日本会議」という疑似宗教集団に引き継がれ、憲法改悪を根強く押し進めてきました。安倍内閣の3分の2はこの組織の役職者やメンバーです。そしてこの思想「天皇を中心とする神の国」は、近代国家を目指そうとした明治政府以来の構想であり、その道は近隣諸国の土地・資源・人間を略奪する侵略戦争への道であり、その結末はアジア諸国の民衆や日本国民の2000万もの命と財産を奪ったことを、歴史は示しています。

ここで私たちは、モーセの十戒の最初に心を向けましょう。「あなたがたは私の他になにもものをも神としてはならない。」言い換えるならば「神でないものは神になってはならない。神でないものを神としてはならない」ということです。

このメッセージから思い描く体験について、二つのこととお話します。

私が小学校に入学したのは戦争が始まって4か月経ったときです。

学校では、天皇は神であり、国民は神の子であると洗脳されました。国民の命は神である天皇のもの、ゆえに天皇が国民の生と死を決定すると教え込まれました。国民は天皇のために戦って死ぬことを義務づけられました。そういう時代を生きた者には、日本会議や安倍政権が目指す憲法に、再び天皇を神とする「神の国」にしようとの気配を感じます。これに対し主イエスの神の国は、神の賜物である命を喜び合う時と場です。主イエスはその神の国を襲う勢力とたたかいました。十字架の道です。「神でないものは神になってはならない。神でないものを神としてはならない」という道です。

もう一つ。日本は 70 年前、敗戦でひどい貧しさの中にありました。しかし今、世界有数の金持ちになったのには、東アジアでの二つの大きな戦争があったからです。一つは朝鮮戦争です。そのとき、私は長崎の中学生でした。長崎は明治時代から軍艦や兵器を造ってきた軍需産業の都市です。すぐ隣の朝鮮・韓国で戦争が起こったとき、武器を造って大儲けしました。私たち子どもたちも武器の材料となる鉄や銅を拾い集めては売り、菓子代にしました。経済は潤い、原爆で破壊し尽くされた長崎は息を吹き返しました。そして教会も！

それから 20 年後のベトナム戦争のとき、私は岐阜教会の牧師でした。岐阜周辺には航空機を造る軍需産業があり、戦地で壊れたり故障したりしたヘリコプターなどを運び込み、修復しては送り戻していました。また周辺には野菜畑が広がり、トマトは青いうちに収穫し、戦地のアメリカ兵に送り、農家も儲かりました。教会には、軍需工場の技術者たちや農家の青年たちが多く集まっていました。日本社会も教会も、隣国の悲惨な戦争で経済的に潤いました。以上のような小さな体験を通して、なぜ国家は戦争をするのかを肌身で感じてきました。戦争すれば景気はよくなる。戦争と経済は結びついています。そこではお金は神です。「神でないものは神になってはならない。神でないものを神としてはならない。」

さらに次のような話を付け加えて、挨拶を終えます。

一昨年(2019年)の 12 月、東京水道橋の韓国 YMCA で第 4 回憲法九条世界宗教者会議が行われ、イスラム、仏教、キリスト教など十五ヶ国の宗教者

約120名が参加しました。その折、マレーシアからの参加者の言葉が心に残っています。彼はイスラム教徒で、大学では平和学を講じ、社会では平和運動のリーダーです。車椅子にすわりながら、穏やかな口調で淡々ところ語りました。「中国の膨張、北朝鮮の核開発は東アジアにとって脅威であるが、しかし両国とも他国を侵略したり植民化したりした歴史はない。その歴史を持つ国が再び軍事化を進めるのは不気味である」と。つまり、日本はアジアで侵略戦争を行なった唯一の国家である。その前科を持つ国が、戦争や武器を放棄するという憲法を守り続けることによって、アジアから信頼され、またアジアの平和のためにだいじな存在であり続けたし、これからもそうであってほしいというメッセージなのです。

皆さん。イエス・キリストは今日ここに私たちを、命を喜び合う神の国にいざなってくださいました。その主イエスは、神ならぬものが神となり、神ならざるものを神とする勢力に対するご自身のたたかいに、私たちをいざなってくださいています。その呼びかけに応じて歩む私たちに、主イエスの言葉が臨みます。「あなたがたはわたしによって平和を得る。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と。

祈りましょう。「イエス・キリストの父なる神さま。あなたの存在とお働きを賛美します。あなたのみ国が来ますように。あなたのみ心がこの地にも成りますように。イエス・キリストのお名前によって、アーメン。」

集会のご案内 **6・26 平和集会** ～沖縄の祈りに心合わせて～

2016年6月26日(日)午後4時～6時

リラン・バクレー監督 映画「ザ・思いやり」

於：恵泉バプテスト教会(東京・中目黒)

主催 日本バプテスト連盟

協力：東京地方連合バプテスト教会社会委員会

／恵泉バプテスト教会社会部